



向台

3月号

平成28年2月29日

中野区立向台小学校

激動の始まりの予感、申年

校長 郡 吉 範

いよいよ今年度も最後の月を迎えました。子どもたちは、卒業、進級に向けて、まとめの学校生活に取り組んでいます。特に6年生は、卒業式への取り組みの中から小学校生活の締めくくりをしっかりと行っています。

さて、もうすぐ中学校へ巣立つ6年生の詩を紹介します。

「そら」

6年1組 西本 美咲

ねえ いいこと思いついたんだ
どんなときでも使える
ぼくだけの まほう

そらを そらを そらを見る
そらを そらを そらを見る
そうしたら
どうなったと思う

息が切れそうな人ごみの中で
道路のコンクリートに目を向け
携帯電話をいじっている



そんな毎日が
かわったんだ

ぼくには そらという 友達ができた
毎日がたのしくなった

太陽や雲と おいかけっこしたり
お星さまを 数えたり
たのしい あそびなんだよ

そらを そらを そらを見る
そらを そらを そらを見る

どう いいまほうでしょ

空を見ることにより、逆に自分を俯瞰できる。自分を冷静に見ることができる自分なりの方法です。思春期という人生の疾風怒涛の時期を迎え、自分らしく乗り越えていくことができると感心しました。向台小学校の子どもたちがしっかりと成長していることが分かる素敵な詩に出会えて、とてもうれしく思いました。向台小学校で体とともに心が大きく成長し、中学校へたくましく進学できる児童をしっかりと育てていくことを改めて強く思います。

この詩は、中野区の文集「中野の子ら」に掲載されます。その他にも、向台小学校の児童をはじめ区内の小学生の素敵な言葉が溢れている文集です。是非、じっくり目を通してください。

保護者、地域の皆様には、一年間本校の教育活動に心強いご支援、ご協力を賜りましたこと、深く感謝申し上げます。来年度も、子どもたちの健やかなる成長を願い、教職員一同全力で教育活動を推進して参ります。引き続きご理解・ご支援をいただきますよう、何とぞよろしくお願い申し上げます。

3月の生活目標

めあてを ふりかえろう